

水稻・大豆 栽培情報6月号

令和 7 年6月30日

JA みづま

久留米普及指導センター

○水稻の管理について

1. 田植え時の注意

極端な深植え、浅植えに注意(2～3cm程度の深さで植える)

- ・深すぎる場合:分げつ発生の抑制
- ・浅すぎる場合:除草剤の薬害、浮き苗の発生

2. 雑草防除(初中期一発除草剤)

初中期除草剤は有効成分が水を介して拡散し、土壌表面に「処理層」を作ることによって雑草の発生を抑えます。除草剤散布時に土壌表面が露出していると処理層が形成されず、除草剤の効果が低下したり、薬害が発生したりする恐れがあります。

除草剤		散布量/10a	使用時期
サラブレッド KAI	1キロ粒剤	1kg	移植時または 移植直後～ルビ2.5葉期
	フロアブル	500ml	
	ジャンボ	10 パック	移植直後～ルビ2.5葉期
ウルティモ Z	フロアブル	500ml	移植後 5 日～ ルビ3葉期
	ジャンボ	10 パック	

※粒剤、フロアブル剤:水深 3～5 cm、ジャンボ剤:水深 5～6 cm

3. 田植え後の水管理

(1)浅水湛水(田植え～田植え 2 週間後)

- ・目安:2～3cm程度
- ・目的:苗の活着促進とジャンボタニシ食害防止

(2)浅水で間断かん水(田植え 2 週間後～中干し前)

- ・目安:湛水後2、3 日たつと、自然落水し足跡に水が残っている程度になる。
この状態を1、2 日程度続けて、再度湛水する。
※麦わらをすき込んでガスが発生している場合は、ガス抜きも兼ねて、落水期間を長くする。

- ・目的:分げつ促進や稲の根の健全化を維持

(3)中干し

- ・目安:茎数が 20 本/株(7 月下旬頃)になったら開始し、田面が黒い状態で小さい亀裂ができる程度(5～7 日間)
- ・目的:①過剰分げつ抑制、②根の活力増進、③倒伏防止、④コンバイン作業の容易化

<理想的な中干し>



○大豆栽培 収量確保のポイント

令和6年産大豆は低収となりました。令和7年産からは品種が「ちくしB5号」に切り替わり、高収量を目指すべく、近年の気象変動を踏まえた2つの栽培ポイントをまとめました。ぜひ、実践ください。

適期播種

○ 播種時期

播種適期は7月5日～20日です。作業計画を立てて、播種を行いましょう。

○ 排水対策

播種適期は梅雨時期にあたります。晴れ間にはほ場に入れるよう、排水対策が必要です。

具体的には、ほ場周縁部に周囲溝を掘り(図1)、排水口に繋げましょう。

弾丸暗きよは、麦前に施工している場合は省略しても問題ありません。

○ 耕起・播種

荒起こし後に降雨があると、排水性が悪くなりほ場に入れなくなるおそれがあります。

播種前まで耕起せず、さらに二工程播種(荒起こし+播種)は、耕起から時間を置かず播種しましょう。

部分浅耕やアップカットロータリーによる一工程播種は、省力的で梅雨の晴れ間の作業が行いやすくなります。ただし、播種前の非選択性除草剤の散布やロータリーの爪の付け替えが必要です。



図1 周囲溝の施工



↑ 図2 部分浅耕の爪の付け替え例

→ 図3 アップカットロータリー

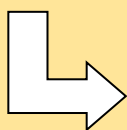


乾燥対策

適期播種のためには排水対策が必要です。一方、出芽後は生育確保のために乾燥対策が必要になりますので、大豆の出芽後、本暗渠の栓を閉めると効果的です。

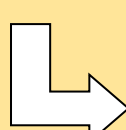
なお、栓の開閉の際、排水路への上り下りで怪我のないよう十分に注意してください。

出芽前



暗きよ栓:開ける

出芽後



暗きよ栓:閉める